



市役所の仕事は多岐にわたり、大変なこともあります、
 どんな業務も市民の生活を支える大事な仕事です。
 様々な経験や知識を身に着けることができるので、
 自身が大きく成長できる場所。
 インターン生が和光市の魅力的スポットや
 市役所職員取材しました。

インターン生が見た 和光市役所の魅力



\ new /

\ old /



wako city HP



人に寄り添った
仕事がしたい。

和光市役所入庁のきっかけ

民間から社会人採用で入庁された遠山さん。入庁のきっかけに「官民連携」という言葉があったそうです。行政、民間の良さをかけ合わせ、市民の方がより良く過ごせるよう、今もその言葉をもとに仕事に励まれています。

仕事をするうえでのやりがい

遠山さんは「和光おさんぽGuide」の作成や「わびあ」の開業に携わってられました。新規事業であったため、「和光おさんぽGuide」の何もないところから新しいものを生み出すことの難しさや「わびあ」開業への準備・調整をすることの大変さなどを経験されてきました。しかし、事業者や地元の方々と一緒に取り組んだことが形になり、市民の方が喜んでくださる姿にやりがいを感じ、その後の困難も乗り越えることができるそうです。

資産戦略課 計画推進担当



遠山 統括主査



職員から、みなさんへひとこと

市役所の仕事は市民の方との距離が近く、人とかわりながら地域に親しみを持って仕事をすることができます。地域と一緒に何かやりたい、人に寄り添った仕事をしたいという方は和光市へ！



プロフェッショナルも
チャレンジも。



和光市役所に就いた理由

最も住民と近い市役所の職員となって、地域のためになる仕事をしたいと思ったのがきっかけだそうです。

今までの仕事のやりがい

中岡さんは大学で歴史学を専攻。学芸員の資格を有し、現在専門性の高い仕事をされており、大変なことがあっても人間的な成長に繋がると話されていました。以前、新設される下新倉図書館のオープニングスタッフとして業務にあたりました。無事に開館を迎え、開館後に図書館で様々な企画にチャレンジした際に、市民の方々がすごく喜んでくださる姿を目の当たりにし、文化財を保護する仕事とは別の喜びを感じたそうです。

生涯学習課 文化財保護担当



中岡 主査

職員から、みなさんへひとこと

市役所や公務員は大変なことも多いけれど、その分やりがいもたくさんあります。公務員に興味があるのであれば、是非インターンに参加して、実際に仕事を体験してほしいです！

印象に残っている出来事

伊藤さんは入庁時、こども福祉課で働かれていました。家庭訪問や電話相談など仕事が忙しく、入庁前とのギャップに心が折れてしまうこともあったそうです。しかし、当時の上司の方や同じチームの同僚の方が仕事が終わるまで待って話を聞いて、親身に接して下さったことが今でも印象に残っているそうです。そして、今でも、一人で抱え込まず、「チームで連携して仕事をする」ことを大切にされています。

仕事と家庭の両立

現在、秘書広報課で働く二児の母、伊藤さん。仕事と家庭の両立は簡単ではないと話されていました。職場では、「報・連・相」を大事にし、仕事の優先順位や進捗状況を共有しつつ、みんなでフォローしあうことで、働きやすい環境が作られているそうです。

職員から、みなさんへひとこと

市役所は仕事と家庭の両立がしやすく、また、自分の頑張りを上司の方が見守ってくれる素敵な職場です。また、人に寄り添い地域に貢献できる仕事のため、「和光市をもっと良くしたい!」という想いを反映させられるやりがいも多くあります。公務員というと、堅い仕事のイメージですが、柔軟にチャレンジできる職場なので、ぜひチャレンジしてみてください! ぜひ一緒にお仕事できるのをお待ちしております。

チームで支え合い、
地域のために。



秘書広報課
広報広聴担当



伊藤 主査



職員から、みなさんへひとこと

地域の課題は沢山あるため、学生のうちから学生ならではの考えを持ち寄って地域をよくしていったほしいです。市役所の仕事は入庁する前に想像していた何倍も楽しいですし、やりがいもあります!

地域と一緒に
共創を。

やりがい

様々な地域課題を市民の方々と共有したうえで、解決していくことが市役所の仕事のやりがいと話していたことが印象的でした。新型コロナウイルスの流行によりひとのつながりの希薄化が課題と感じ、身体表現のみの「黙フェス」のようなものを開催したいと考え、市民の方を中心としたプロジェクトチームを立ち上げられました。年齢や環境が違う50人のチームメンバーと話し合い、中学生はe-sportsの大会を、大人はボーイというアートパフォーマンスをすることになり、9時間を超える無観客配信のフェスを開催。その経験から、共創することの大切さを再確認したと話されていました。

心に残っているエピソード

一年半、オリンピック・パラリンピック組織委員会に出向されていて、和光市に戻ってきたとき、市民の方々がたくさん集まってサプライズでおかえりなさい会を開いてくれたことが心に残っているそうです。

総務人権課
文化国際担当



林 課長補佐



インターン生が見た 和光のキニナル魅力スポット

住宅地のなかにひっそりと存在している新倉ふるさと民家園。その中にある「旧富岡家住宅」は、今から約300年前の江戸時代に建築されたと推測されている。新倉ふるさと民家園の庭先ではコマやけん玉で遊ぶことができ、大人から子どもまで昔の雰囲気を楽しむことができる。また、季節ごとの日本ならではの体験会が開催され、ものを作る大変さ、大切にすることを育むことができる。持続可能な社会への変革が叫ばれている「今」、ものの大切さを学ぶきっかけとして、江戸時代へとタイムスリップするのは、いかがでしょうか？



《8月の行事》
まこも馬づくり



INTERNSHIP インターンシップを終えて



私がこのインターンシップを通して印象に残っていることは、「当たり前は当たり前ではない」という言葉です。市役所の仕事は、市民の方の協力がなくては行えず、常に耳を傾ける必要があります。だから、この学びを生かし、信念を持ちながら、相手の立場で柔軟に物事を考えられるようにこの言葉を胸に刻んでいきたいです。

【岡田】



最初は不安がいっぱいで緊張していましたが、皆さんがとても温かく迎え入れてくださり、安心して実習を始めることができました。この実習に参加したことで、今までの市役所のイメージがよい意味で変わったように感じます。職員の皆さんが団結し、地域をよくしようとお仕事をされているのが伝わってきてすごく貴重な体験をさせていただきました。

【長谷川】

ちょっと
伝えたい。わこう。

和光市といえば都心に近く、通勤に便利なベッドタウンというイメージをお持ちの方が多くは。湧き水のある豊かな自然や江戸時代の面影を残す白子宿など歴史が息づいているのも魅力の一つです。



市の木の由来になった長照寺の大イチョウ。推定樹齢700年！



和光版Maasの一環として自動運転サービスを導入。自動運転バスが走行しています。



新倉ふるさと民家園は「景観重要建築物」に指定



新鮮な旬の地場野菜も豊富。和光農産物直売センターや駅前での軽トラ市で購入できます。



清らかな湧き水が流れ出る富澤湧水